

東京大学大学院医学系研究科・医学部  
男女共同参画委員会主催  
第7回医学系キャリア支援のための交流会  
開催報告および参加者アンケート集計結果

I. 企画の概要

1. 目的：医学系研究科・医学部、そして、社会において、  
①医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。  
②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2018年6月26日（火） 第一部：16:50～18:00、第二部：18:00～19:00
3. 場所：東京大学医学図書館3階 333会議室（第一部）、310会議室（第二部）
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員  
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員  
・医学に関心のある教養学部学生・高校生など（いずれも男女不問）  
※ 他機関からの参加可。事前申込不要。先着100名着席可。

5. プログラム：

司会 北中幸子・細谷紀子

【第一部】

16:50 開会挨拶

（矢富裕 副医学系研究科長・副医学部長、秋下雅弘 医学部附属病院 副院長）

16:55 講演

「Visionをもち、しなやかにキャリアを形成する  
～キャリア支援制度の充実とその先を見据えて～」

埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科 教授 名越 澄子 先生

17:35 質疑応答・全体討論

17:55 中締め

【第二部】

18:00～19:00 自由歓談・情報交換会

6. 企画・運営：

東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会（委員長 佐藤伸一）

第7回医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会

幹事：北中幸子・細谷紀子

委員：飯塚陽子・高本偉碩・田村純人・野村幸世・春名めぐみ・本田郁子・吉崎麻子

M4：高橋健祐・米田あゆ・頼友梨恵 M3：糸数昌史・高橋優輔・中島ひばり

M2：岩田千尋・関彩花・田頭祥之助 M1：笠原千晶・鴻野芽依・吉富祐太郎

C2：鐘ヶ江真理子・和田都花

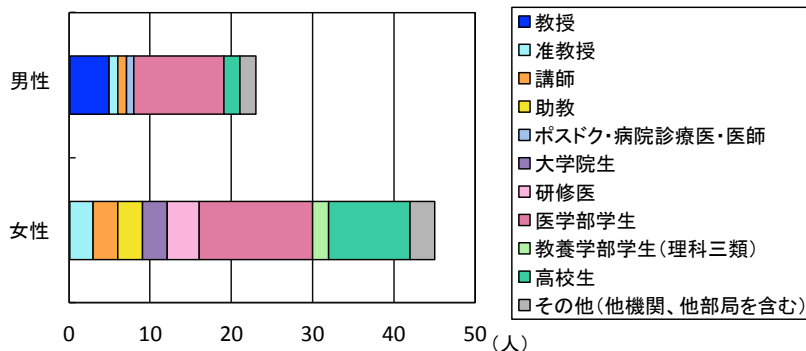
## II. 開催報告

### 1. 参加者数と属性（受付での記帳より）

参加者内訳

職名(特任、客員を含む)	男性	女性
教授	5	0
准教授	1	3
講師	1	3
助教	0	3
ポスドク・病院診療医・医師	1	0
大学院生	0	3
研修医	0	4
医学部学生	11	14
教養学部学生(理科三類)	0	2
高校生	2	10
その他(他機関、他部局を含む)	2	3
計	23	45

(人)



【ご参加いただいた高校生、高校関係者のご所属（カッコ内は人数）】

桜蔭高校(4)、豊島岡女子高校(4)、横浜雙葉高校(2)、東京学芸大附属高校(1)、駒場東邦高校(1)、攻玉社高校(1)

### 2. 当日配布資料

資料1 プログラム

資料2 アンケート用紙

### 3. 会の概要

「医学系キャリア支援のための交流会」は、2012年以降、毎年6月の男女共同参画週間に開催されている。7回目を迎える今回は、講師として、埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科教授の名越澄子先生をお招きし、医学系キャリアを形成する上での支援方法や課題への理解を深めることを目指した。

開会にあたり、矢富裕副医学系研究科長・副医学部長と秋下雅弘医学部附属病院副院長よりご挨拶をいただいた。矢富副研究科長・副学部長からは、男女が協力してそれぞれの個性・能力を発揮することが組織の活性化のためには重要であること、とくに男性の意識を変えていくことが必要であり、この交流会の果たす役割が大きい旨の話があった。秋下副院長からは、性差医学・医療や老年医学などの観点から、性差は存在するものの、その垣根をどのように超えていくべきか、年に1度のこの交流会で参加者の皆さんと共に考えたい旨の話があった。

続いて、名越澄子先生より「Visionをもち、しなやかにキャリアを形成する～キャリア支援制度の充実とその先を見据えて～」というテーマで講演が行われた。

名越先生は、まず、昭和58年に本学を卒業されたこと、そして、同期の女性は4人おられ、病気になられた方を除き、現在もそれぞれが多面で活躍中であることを紹介された。名越先生ご自身は、ご卒業後、2年間の内科研修を経て、本学医学部附属病院第一内科に入局され、入局1年目に第一子を出産された。出産されてまもなく、乳児を抱えながら病棟業務を行う難しさに直面し、20歳代から30歳代の子育て期間中は、大学での肝臓病学の研究を中心としたキャリア

を歩まれた。肝再生の機序を理解すべく、ラットの部分肝切除の実験を繰り返し、当時は同僚に“暴走族”と呼ばれながら、1日に自転車で自宅、保育所、研究室の間を何往復もする生活を送られたという。当時は現在のような育児支援制度が整っておらず、外来、検査、当直、カンファなどの臨床業務も、お母様のご協力を得ながら継続されたとのことである。

続いて、医師の育児支援に必要なしくみについて、全国医学部長病院長会議の資料や東大病院・埼玉医科大学での例を示しながら述べられた。「病児保育」は、子育て世代が責任のある仕事を継続するために不可欠なしくみである。現在全国の大学病院では90%以上が育児施設を設置しているが、病児保育を備えるのはまだ30%で不十分である中、東大病院では、既に病児・病後児保育室（ひよこケアルーム）が設置されていることを紹介された。一方、「短時間勤務・パート医制度」も重要であり、東大病院では「病院診療医」、埼玉医大では「非常勤講師」の制度が運用されていることを紹介された。このような制度は、医師の働き方の多様性を認め、柔軟に利用可能なものにすることが大切である点を強調された。さらに、「チーム主治医制」の重要性についても述べられた。これまでの主治医制は、医師の就業のオンオフが不明確で、育児・介護中の医師の勤務継続にとって最大の障壁となってきた。もしチーム主治医制がうまく運営されれば、育児・介護世代の医師の勤務継続問題だけでなく、医師の過重労働の問題、診療の質や安全の向上に結び付く。埼玉医大での取り組みの例として、屋根瓦方式で約15人の患者を受け持つチーム主治医制や育児休暇明けの女性医師がチームの中で病棟業務を行っている事例などを紹介された。

次に、医師のキャリア支援の在り方について述べられた。「無意識のバイアス」の存在を知り、取り除くように努力して欲しいことを強調された。例として、育児・介護世代の医師を管理する立場の上司が、育児・介護中の医師本人の意思を聞かずに先回りして責任の軽い業務に変更させるなどの意思決定をすることは避けるべきであること、また、当事者である男性・女性医師たちも、勤務と家事・育児・介護における役割分担を性別で固定化することなく、柔軟な考え方を心掛けるべきであることを挙げられた。実在する事例として、家事育児の中心を担う時期を夫婦で数年ごとに交代するという柔軟なキャリア形成を行っている夫婦医師のケースを紹介された。

医師の「働き方改革」については、現在議論が行われている最中である。名越先生は、医師の過重労働を減らすための方策として、業務の効率化、多職種の連携、ロボットやAIの利用などの課題を挙げられた。また、「イクボス10カ条」を紹介され、管理者は、成果を評価すること、キャリア形成に尻込みしがちな女性医師に尻込みしている理由を聞き、背中を押すことが大切だと述べられた。女性医師に対しては、「型にはまったあり方から自由になり、完璧を求めず失敗を恐れないで。」とのメッセージを送られた。

最後に、人間は、明確な将来のVision（目的意識）を持つことでそれに向かって自分で育ち目標に到達することが可能であること、豊かな人生を送るには到達目標や信念への深い傾斜が不可欠であることを強調された。そして、これからは女性・男性に関わらず若い医師たちが医学の世界に何ができるかを考えていってほしいと述べられ、結語とされた。

質疑応答では、医学部学生を中心に、体力の性差、出産に適切な時期、現在の研修医・専門医制度上の支援状況など、具体的な質問が寄せられ、名越先生からは豊富な経験に基づいたご意見やアドバイスをいただいた。

第1部の終わりに、中締め挨拶として、佐藤伸一男女共同参画委員会委員長より、ご講演いただいた名越澄子先生への謝辞が述べられた。

第2部の自由歓談は、前回同様、医学を志す高校生から医学生、大学院生、教員まで、幅広い層の参加があり、ライフワークやキャリアについて情報を交換し合う有意義な時間となった。

### III. 参加者アンケートの集計結果

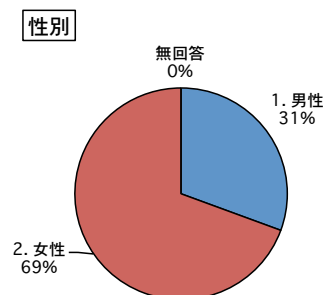
回収数：49件（回収率 72.1%）

回収方法：当日参加者にアンケートを配布し、回答を記入いただいた上、退場時に回収した。

#### < 基本情報 >

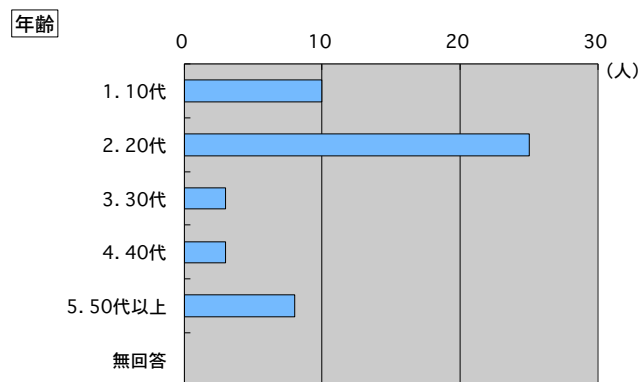
##### A 1) 性別

性別	n	(%)
1. 男性	15	27
2. 女性	34	71
無回答	0	2
計	49	



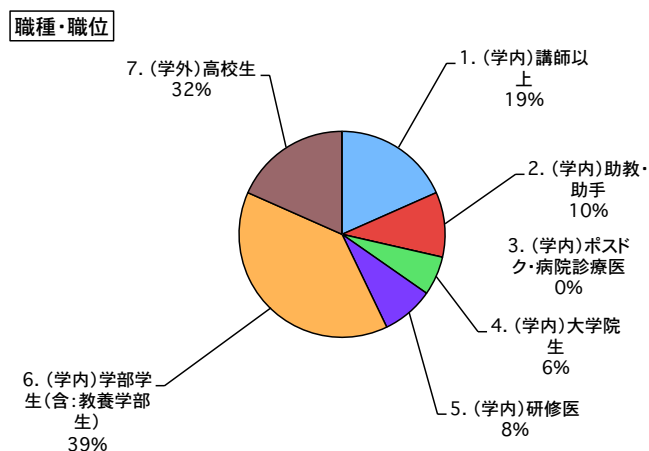
##### A 2) 年齢

年齢	n	(%)
1. 10代	10	20
2. 20代	25	51
3. 30代	3	6
4. 40代	3	6
5. 50代以上	8	16
無回答	0	0
計	49	



##### A 3) 職種・職位（特任・客員を含む）

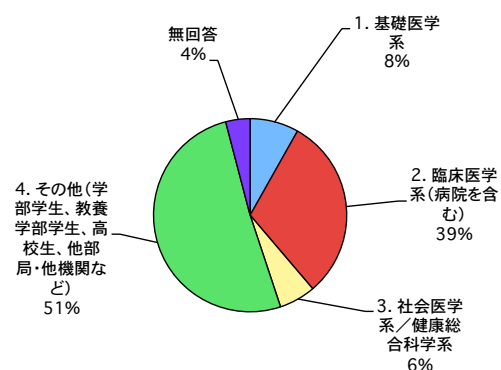
職種・職位	n	(%)
1. (学内)講師以上	9	18
2. (学内)助教・助手	5	10
3. (学内)ポスドク・病院診療医	0	0
4. (学内)大学院生	3	6
5. (学内)研修医	4	8
6. (学内)学部学生(含:教養学部生)	19	39
7. (学外)高校生	9	18
8. その他(他部局・他機関など)	0	0
無回答	0	0
計	49	



A4) 所属

所属	n	(%)
1. 基礎医学系	4	8
2. 臨床医学系(病院を含む)	15	31
3. 社会医学系/健康総合科学系	3	6
4. その他(学部学生、教養学部学生、高校生、他部局・他機関など)	25	51
無回答	2	4
計	49	

所属

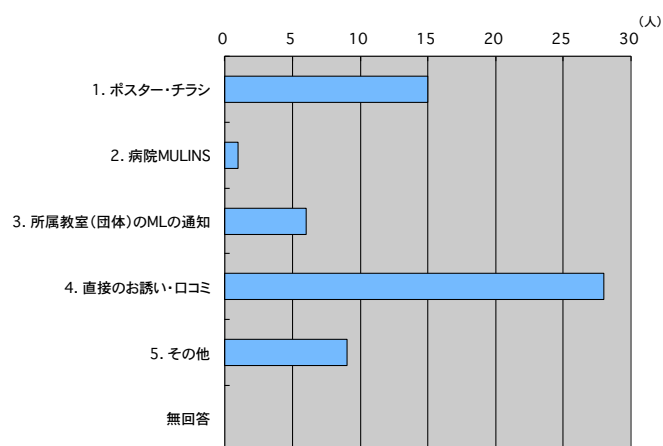


A5) この会を何でお知りになりましたか

(複数回答可)

会を知った媒体(複数回答可)	n	(%)
1. ポスター・チラシ	15	25
2. 病院MULINS	1	2
3. 所属教室(団体)のMLの通知	6	10
4. 直接のお誘い・口コミ	28	47
5. その他	9	15
無回答	0	0
計	59	

会を知った媒体(複数回答可)



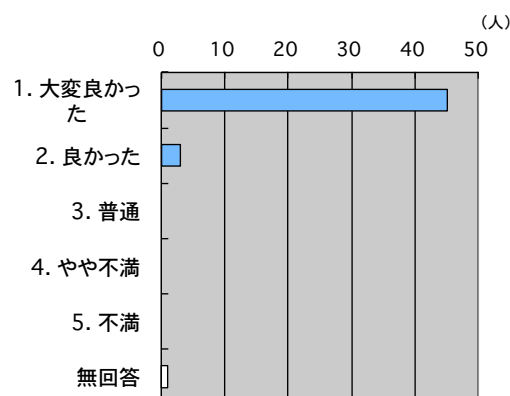
<今回の企画の感想について>

B1) 講演 名越澄子先生

「Visionをもち、しなやかにキャリアを形成する  
～キャリア支援制度の充実とその先を見据えて～」  
について

講演(名越澄子先生)	n	(%)
1. 大変良かった	45	92
2. 良かった	3	6
3. 普通	0	0
4. やや不満	0	0
5. 不満	0	0
無回答	1	2
計	49	

講演(名越澄子先生)



## B2) 講演について、あるいは、本企画についての感想（自由回答）

### 今回の講演について：

- ・ 大変すばらしく勇気づけられるご講演でした。ありがとうございました。
- ・ メッセージ性の強い素晴らしい講演でした。
- ・ タイトル通り、しなやかな生き生きとした語り口で先生の実体験を伺うことができた。
- ・ 消化器内科で大成功している名越先生のお話は大いに勉強する点がありました。外科系で活躍している女性医師にも今後お話し頂きたい。
- ・ 女性がキャリアをどうするか、男性がどのように考えるべきか、管理職がどう支援するべきか、様々な視点からお話を伺えた。
- ・ 名越先生のキャリアやそれについての振り返りを聞かせていただき、女性が医学の分野で働くときにどのような問題があり、どのように乗り越えるべきかを学ばせていただきました。明確な目標を持つことがコツだと学びました。
- ・ マミートラックに陥らないための周囲の働きかけは参考になりました。Vision をもつことの大切さを改めて認識しました。
- ・ 経験談や育児、制度などにもふれた様々な視点からのお話で興味深かった。
- ・ 医師としてのキャリアもさることながら、学外での活動もなさっている先生で、大変刺激を受けました。
- ・ 大変参考になりました。
- ・ 同じ女性としてとても参考になりました。
- ・ 男性視点からも参考になるところが多く、すばらしい講演だった。
- ・ 名越先生のキャリアをロールモデルに、医師としてどのようにキャリアを築いていくべきかを考えるよい機会となった。
- ・ 東大医学部の女性の先輩として、どのようにキャリアを積まれたのかをロールモデルとして具体的にお話を伺って大変興味深かった。
- ・ 子育てなどで苦労された経験をそのままお話しくださり、勇気が持てた。
- ・ 女性医師としてのキャリアの具体的な在り方を多く聞いて興味深かったです。
- ・ 具体的な非常勤講師の勤務時間、日数について聞いたこと、他の卒業生の夫婦で具体的にどう支え合っていたかという話まで聞いて面白かったです。ありがとうございました。
- ・ 数少ない女性のロールモデルのお話を聞くことができ良かったです。また、時間差攻撃の話など、多様な生活のお話を聞いてよかったです。
- ・ 実際に働いている医師の方々の実体験を直接聞くことができよかったです。子育てとキャリアは両立できないものだと思っていましたが、どちらの夢も叶えられるようにしたいです。
- ・ 私の両親は共に医師ですが、母は私と妹を出産後、専門医取得を諦め、パートで復帰していたので、とても身近に感じました。
- ・ チーム主治医制の導入というお話が興味深かったです。「男女共同参画」は、結局男女関係なく「働き方改革」につながるということに気づかせていただきました。
- ・ 大変勉強になる時間でした。
- ・ 初めて予定が合い参加することができましたが、貴重なお話を聞いてよかったです。学生への結婚後の仕事の仕方についてのアンケートの最新版の結果がすごく気になります。

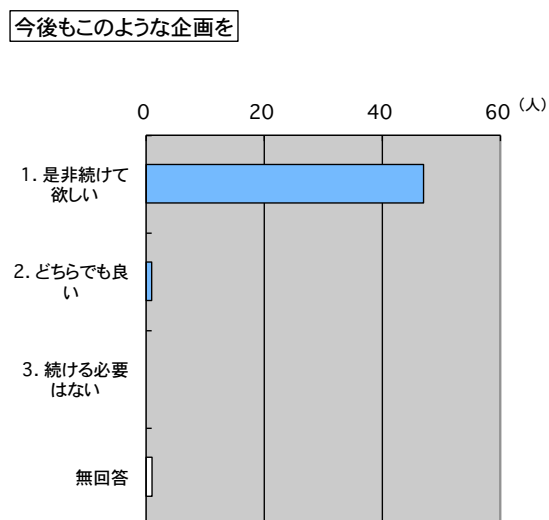
- ・ 学生にとっても将来を考える上でイメージの湧きやすいお話をしてくださった上に、今ボスの立場におられる方へのお話もあり将来に希望が湧きました。
- ・ 実際にキャリアを積んできた方のお話を聞いて、今後頑張ろうというモチベーションが上がった。
- ・ 今まで漠然としか考えていなかった将来について、現役で働いていらっしゃる方の話を伺うことができ、自分の人生観やビジョンについて考える上でよいヒントをもらえました。
- ・ 今まで漠然と医者になりたいと考えてきただけで、医者になるということ、妊娠・育児などについて考えたことはありませんでしたが、今回たくさんのお話をきいて、より医者という夢に近づいたと思います。来年も参加したいです。本当にありがとうございました。
- ・ 将来は医学部に入りたいと思っているので、知らなかった医学部の現状を知れてよかったです。
- ・ 自分の聞きたかったことを聞くことができよかったです。調べてもあまり分からないことや実際の方の例などのお話がとてもおもしろかったです。
- ・ 女医さんが子育てするのは大変なことだろうと思っていたが、チーム主治医制や時間差で夫婦協力して育休、キャリア積みをするなど様々な方法があると知り、感動しました。今日は本当に素晴らしい講演を拝聴することができ、うれしかったです。

講演に関連する要望：

- ・ 名越先生が管理職向けと思われるスライドを見せてくださいましたが、このような内容を教授会や執行諮問会議で出していきたいです。

B3) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われませんか。

今後もこのような企画を	n	(%)
1. 是非続けて欲しい	47	96
2. どちらでも良い	1	2
3. 続ける必要はない	0	0
無回答	1	2
計	49	



#### B4) 交流会の内容や今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見ご要望（自由回答）

##### 交流会について：

- ・ こういった講演に出るのは初めてだったのですが、想像以上に素晴らしくて、とても勉強になりました。学校の人に宣伝してきます(笑)。
- ・ まさにこのような話を聴きたいと思っていたところだった。来年以降もぜひ続けてほしい。
- ・ 今後も継続していただければと思います。
- ・ いつも参考になるご講演をしていただき、ありがとうございます。
- ・ 今後もキャリアについての話があれば聞きたいです。
- ・ パネルディスカッションなどもやってほしいです！
- ・ 高校生から参加の枠が設けられていてとても良い会でした。また、先生自身のキャリアのみでなく、管理職の先生からみた問題提起を教えてもらうことができ、とてもためになりました。ただ、会の時間を働いている人も来やすい時間に設定していただけると、より多くの方が聞きにこれるのではと思います。
- ・ 制度を決める立場にある上の先生方も、お時間が難しいとは思いますが、より多く参加していただければ、さらにスピード感がある改革が始まるんじゃないかと期待しています。

##### 男女共同参画について：

- ・ 今回の講演にあった“育ボス”(育児に理解のある上司)の育成のためにも、男女共同参画委員会と医学部、病院の管理職の間でも交流があるのが望ましいように感じました。
- ・ 最近、眼科は全ての診療活動(0pe. 外来. 外勤…)を週に半日つぶしてカンファレンスに充て始めたそうで、うらやましい限りです。働き方改革の1つとしても、当院の各診療科がどういった曜日のどのような時間帯で出席必須のカンファレンスを開いているのか、まず実態調査して頂きたいです。そこからさらに時間外の開催へは圧力をかけて頂きたいです。ちなみに、当科では週に2回(平日)、20時や21時(やもつと)までかかるカンファレンスをしています。一方隣の科では週末にカンファをしていることもあり、そちらはさすがにルール違反だと思うので気の毒です。結果的(?)にその科では女医さんはほとんど残りません。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。

本アンケートの結果を、今後の行事の企画・運営、および、男女共同参画委員会の活動に活かしていきたいと思えます。

今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科・医学部  
男女共同参画委員会